

サトイモ (サトイモ科)

3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
	植えつけ						収穫				
	芽出し										

草丈も葉も大きく1株でかなりの場所をとり、生育期間も長く、連作障害も出る野菜なので家庭菜園にはあまり向きませんが、半日陰でも十分育ち、手もあまりかからないので、条件さえ合えば食用の価値のある野菜です。

品種

食用にする部分によって、親イモ用品種、子イモ用品種、親子

兼用品種があります。一般に赤茎のものは親子兼用品種、青茎は子イモ用品種で、ずいき(葉柄)にえぐみがあります。その地方特有の品種があれば、それを選びましょう。

〔親イモ用品種〕^{やつかしら}ハツ頭、^{ふくがしら}セレベス、^{ふくがしら}福頭

〔子イモ用品種〕^{どた}土垂れ、^{いしむ}石川早生、^{ふんこ}豊後

〔親子兼用品種〕^{あか}赤芽、^{えびいも}えびいも

栽培ポイント

連作すると、主としてネグサレセンチュウなどによる障害が出ますので、3～4年の輪作をします。

熱帯アジア原産ですから、高温多湿、長日下でよく生育します。

乾燥に対しては弱く、収量、品種に大きな影響を与えます。しかし、水分は十分でも、排水が悪いとよく育ちません。乾燥を防ぐには、畑はよく耕しておいて、マルチングをするのがよいでしょう。

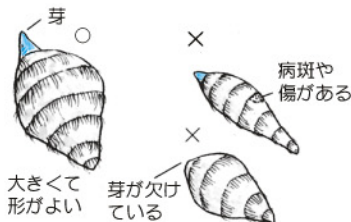
タネイモの大小と覆土の多少が、生育の差を左右する大きな要因になります。タネイモの大きさはそろえておくようにしましょう。また、深植えしたものは発芽が遅れて株が不ぞろいになるので、植えつけの際は特に気をつけましょう。

栄養

デンプン質が主で、糖分も若干含まれますが、ビタミン類はわずかです。独特のぬめりはガラクトンとマンナンとの結合物で、加熱によって出てきます。

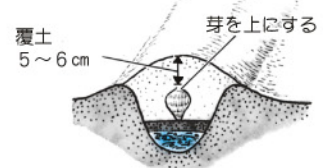
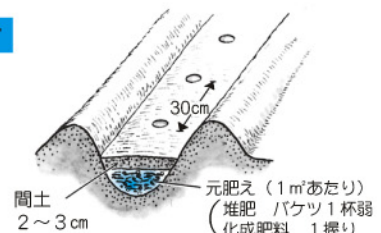
1 タネイモの入手

タネイモは4月ごろ種苗店で購入する。40～60gの大きさで、形のよいものを選ぶ。小さなもの、芽が抜けたもの、病気のものは避ける。



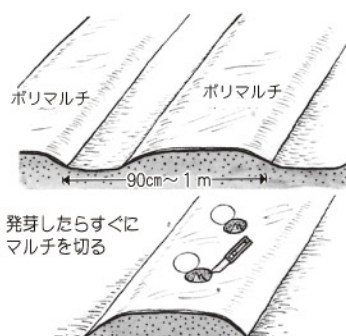
2 畝作り・植えつけ

植えつけの1週間前に、薄霜程度の白さに苦土石灰をまいて土を耕しておく。植えつけ当日に畝を作り、間土をした上に、上下をまちがえないようにタネイモを並べ、土をかける。



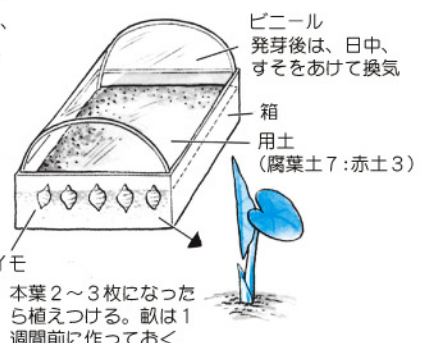
3 ポリマルチ

サトイモの発芽は25～30度が適温で、発芽までにはかなりの日数がかかる。植えつけ後、畝にポリマルチをして地温を高めると発芽が早い。



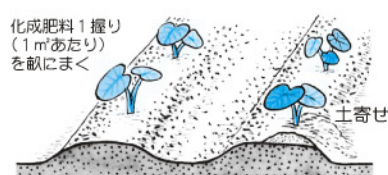
4 芽出し植え

発芽を早めるためには、芽出しをして植える方法もある。タネイモを伏せ込んだ箱は暖かい日当たりにおき、夜は室内にとり込む。



5 追肥・土寄せ・敷きわら

5月下旬と6月下旬の2回、追肥をし、同時に中耕、土寄せを行う。土寄せは子イモが隠れる程度とする。また、土が乾燥するとよく育たなくなるので、梅雨明け前に厚く敷きわらをしておく。



6 収穫

軽い霜に一度あたったころ掘り上げる。寒さには弱いので、いつまでもぼうっとおくと腐り込んでくる。ずいきを利用する場合は、早めに収穫を。



主な病害虫

- ◆病気 乾腐病
- ◆害虫 ヨトウムシ、アブラムシ、ハダニ

